

# 大分寺婦

第26号

発行  
大分教区  
寺族婦人会連盟

〒874-0920  
別府市北浜3丁目6-36  
本願寺別府別院内  
TEL 0977-22-0146

## 新年のご挨拶

大分教区寺族婦人会連盟 委員長 甲斐 薫子



新しい年を迎え、皆様におかれましては、お念仏相続のこととお喜び申し上げます。

親鸞聖人は「念仏者は無碍の一道なり」とおっしゃいました。皆さんも早く念仏者になって無碍の一道に出てください。と人生の目的をお示し下さいました。

ここで言う念仏者は、今、阿弥陀仏の本願に救われ、無碍の一道に生かされた嬉しさに称えずにはおれぬ他力の念仏者のことです。

文明が発達し、物が豊かになっても、なぜか一向に苦しみがなくならない。苦しいのは政治経済が悪いからでも、結婚相手のせいでも、お金が無いからでもないのです。苦しみの根元を知らないからなのです。阿弥陀仏は苦悩の根元を「無明の闇」と見抜かれています。無明の闇と言うのは、後生暗い心、死んだ

らどうなるのか分からない心です。阿弥陀仏は「この後生暗い心をぶち破って、いつ死んでも浄土往生間違いない身にしてみせる」と本願を建てられました。聖人は弥陀の本願まことを、お念仏のみ教えとして一生懸けて私たちに残して下さいました。なんと有り難いことでしょう。聖人のご恩に報いるためにも、ますます聴聞に励み、皆さまと共に御同行の輪を広げ、無碍の一道に出ていけたらと思うところで。 合掌

## ● 研修総会 ●

平成二十四年度大分教区寺族連盟研修総会が、六月四日、四日市別院本堂にて行われました。県下各地から八十三名の参加者があり、久々に顔を合わせて、あちこちで話の花が咲いておりました。



沙々木学海教務所長挨拶

今年度就任された沙々木教務所長のご挨拶では、まず、この四月より宗派は「基幹運動」から「御同朋を目指す運動」へと転換された旨のお話がありました。そして、当たり前の人生と思っている私たちに、お釈迦様は「人間に生まれるのは稀である」「ガンジス河の砂粒がすべての生命であるならば、握って開いて掌に残った砂粒が人間である」とおっしゃられたことを基に、寺族の縁を得た私たちに、この稀である大切な命のことを



委員長挨拶(甲斐薫子)

御門徒に伝えていって欲しいと締めくくられました。  
午後からの講話では、昨年とても勉強になったので今回も是非、という委員会の強い要望で、昨年度に続いて東光爾英先生に『浄土真宗の要と特色』と題しのご講話をいただきました。  
本年度は、真宗教義の本源である「七高僧と親鸞聖人の教えとの関係を見る」という内容でお話してくださいました。宗祖親鸞聖人が先人から気の遠くなるほど多くのことを学び、そ



総会議事

して、『他力回向』『悪人正機』等、独自の教えを確立させていったことを再認識するとともに改めて有り難く思いました。

最後に先生は、ある信心のある方とご一緒した際にみ教えのことを質問され、「一緒に考えていきましょう。」と心えたら、「あんたが教えてくれんで誰が教えるんか。」と言われ、水をかけられた思いをしたという経験談をお話されました。そして、「自分たちには伝える責任がある。浄土真宗のみ教えを伝えて



講話(講師=東光爾英師)



たくさんの寺婦会員!(左側より)

行きましたよ。」と、結ばれました。  
「寺族に課せられた「伝える責任」。



熱心な寺婦会員!(右側より)



受付 4人娘!

任」。自分には何ができるか、改めて考えさせられた研修総会でした。

## 寺婦活動

### 大野組

大野組の寺族婦人会は、豊後大野市(三重町・大野町)、臼杵市(野津町)、津久見市の一部の十四ヶ寺より構成されたグループで活動をしています。

大まかな年間スケジュールと活動内容をご紹介します。

四月は総会が開催され、年間のスケジュールの調整や活動内容等の話し合いをします。

五月・六月・十月・三月は定例勉強会を各寺持ち回りの会所で行います。この勉強会は数十



お正信偈練習(指導 佐々木浄徹師)



講義(講師 深川英暢師)

年以上前から続けられ、組内のご院家さまをご講師にして、親鸞聖人さま・蓮如上人さまについてや、残された書物の内容からテーマを設定したものとなっています。今現在、私共は了仁寺御住職さまより『正信偈の中を紐解く』ことをテーマにオリジナルテキストも使って勉強に取り組んでいます。その日程の中に一年に一回ですが、正信偈の練習時間を加え、組内の新院さま方にご指導をお願いしてい

ます。

また以前からも行っていたことですが、昨年七月に傾聴ボランティアの研修会を大野組の全面バックアップで、専門の先生方に県外からお越しただいたいて、実地やロールプレーを含めたとても深い内容の研修も行うようになりました。

同じ七月には組内仏青主催で子ども会の楽しいイベントがあり、昼食準備のお手伝いで参加しています。

毎年八月下旬頃には夏季合同研修会門徒講追悼法要が行われますが、その際に隔年で寺婦会



テキスト

によるバザーの時間を設けています。その収益金は義援金に当てようとしています。

限られた中でのわずかな活動ですが、そのどれもが新しい発見や励ましや笑いがあつて、時の経つのも忘れてしまっています。これから先も楽しく活動できるお手伝いができたらと思っております。

## 寺婦報告

### 水害を経験して

#### 日田組

七月三日朝、日田市は突然の大雨に襲われました。一時間に一〇〇ミリを超える豪雨でした。私のお寺も裏山の土砂が多量に流れ出し、本堂・庫裡の壁に達しました。

強い雨が降るたびに裏山の土砂が激しく流れ出し、裏山そのものが崩壊する恐怖を感じて避難所に避難しました。幸い裏山の崩壊はありませんでしたが、本堂と庫裡の裏・境内地に多量



裏山 崖崩れ

の土砂がたまり、短時間でのお寺の変わりように驚きました。災害後、門徒総代の方が各方面に足を運んで事後処理にご尽力してくださいました。また、御本山・教務所の方が視察とお見舞いに来てくださり、とても心強く感じました。今回の災害を経験して実践運動にある「災害支援」の大切さを考えさせられました。ご門徒様にも大きな被害が出ています。災害時に寺院としてどのように「災害支援」ができるのかを考える機会を与えていただいたように感じました。



床下浸水

おくやみ

平成二十四年は左記の方がご逝去されました。

謹んでお悔やみ申しあげます。

○唯 有 養 子 (87歳)

国東中組 妙光寺 前坊守

平成二十四年二月五日

○石 木 ミ ツ (102歳)

速見組 常照寺 前坊守

平成二十四年五月四日

○阿 部 ミ チ (95歳)

国東組 教証寺 坊 守

平成二十四年五月二十一日

○川 谷 千代子 (88歳)

下毛中組 宗林寺 前坊守

平成二十四年六月二十四日

○小 野 静 子 (96歳)

日田組 浄光寺 前坊守

平成二十四年六月二十八日

○甲 斐 至 子 (87歳)

国東中組 光源寺 坊 守

平成二十四年九月二十三日

○工 藤 次 子 (93歳)

速見組 金光寺 前坊守

平成二十四年十一月十七日

あとがき

毎年ドラマを生む箱根駅伝。渡すはずの仲間がいない繰り上げスタート…つらいですね。つながり、つなげていくタスキ

お内佛報恩講のご案内

日 時：二〇一三(平成二十五)年二月五日(火) 十時四十五分〜受付

場 所：本願寺別府別院「会館お内佛」(二階) 講 師：日野 凡記先生(速見組・安楽寺)

が、自分の番で止まってしまいう後悔の念。棄権せざるをえない走者の心の葛藤と自負の念…悔しいでしょうね。だからこそ、みごとに繋がった時は、感動のタスキリレーです。

私たち真宗教団の寺院も門徒も、いのちのリレー・念仏のお育てリレーを、考える時代に入りました。渡す子や孫…次代担うべき伝える相手はいますか？組織は育っていますか？念仏の輪は広がっていますか？

さあ、繋げていきましょう！伝えていきましょう！『そつとつながる ホッがつたわるく結ぶ絆から、広がるご縁へく(総合テーマ)』